

消防団適正配置については団員の声と実情をしっかりと反映して見直しを

橋爪法一議員



を行ったと答えました。また全団員にアンケート調査を行い、その結果として消火活動などにおける初動体制の問題や周りからの消防団員への理解不足、また団員からは、消防行事や訓練の見直しによる負担軽減を求める声が多く上がるなど、実態が明らかになったとのべました。

橋爪議員は、具体的にポンプ操法や部隊訓練に対しても「必要がない」と答える団員が多いことには驚いた、しっかりと団員の声を聞いて見直すべき時に来ているのではないかと市長に質問。市長は「検討委員会の報告書をしっかりと受け止め将来の姿をイメージして先送りせず取り組んでいく」と答えました。

団員の確保も難しい状況になっている。当市でも例外ではなく、将来を見据え消防団の機能を確保することが大きな課題になっている」として、現状把握のために全ての消防部と地元町内会長に対してヒアリング

橋爪議員は、3月28日に提出された「上越市消防団適正配置検討委員会報告書」について、アンケートに示された消防団員の率直な声・姿が「消防団に入ったからには一生懸命に頑張ろうという姿があらわれていた」と称賛しながら、しかし、様々な苦労や負担が増していることを率直に指摘し、「これからの消防団の適正配置」については消防団員の声や実態をしっかりと把握しながら見直すべきではないかと市長の考えを質しました。

これに対して市長は、「地域の防災力の中核的役割を担う消防団への期待が高まっている。その一方で、全国的に団員数が減少するとともに

運転免許証自主返納者も含めた交通弱者の「移動権」「交通権」保障のための交通ネットワークの確立を

上野公悦議員

どうか確保するか、免許証返納支援事業の継続拡充を含めて、互助、公共交通ネットワークを様々な角度から検討し整備していく必要がある」とのべ、市長の考えを質しました。

市長は、「免許返納者をはじめ、免許を持たない方に対する支援として、割引サービスのほか、バス・タクシーの利用券を交付している」「互助・共助による移送サービスなどを含む新たな交通ネットワークの検討を進めているところであり、社会全体で取り組むべき課題ととらえ、幅広く移動手段の確保に努めるてまいりたい」と答えました。

「えちごトキめき鉄道が運賃値上げと合わせて、高齢者を対象に運賃割引を打ち出した。しかしこれだけでは移動手段確保の根本的な解決にはならない。自宅からどうやって駅まで移動するか、降車駅からどうやって目的地まで移動するか、移動に係る費用の問題もある。ここがみそだ」。上野議員は、運転免許証自主返納支援事業が事務事業評価の結果「廃止」と評価された問題を取り上げました。

同議員は、平成30年6月に国土交通省自動車局から出された「交通政策白書」を紹介しながら、「①改正道路交通法の施行や相次ぐ高齢者による交通死亡事故を背景に、運転免許証自主返納件数が増加している。②一方で、働く高齢者が増加しているとともに、買い物や病院、役所などでの用事などの目的で外出する高齢者も多いという実態がある。だからこそ、この問題は、免許証の自主返納だけではなく、返納者も体が不自由で運転できない人も含めて、『移動権』『交通権』（市長答弁から）を



えちごトキめき鉄道の運賃値上げについて

橋本正幸議員

えちごトキめき鉄道株式会社は、

えちごトキめき鉄道株式会社は、開業時に

策定した経営基本計画以上に損益が厳しい状況だとして、来年4月から運賃を3割程度値上げするとの方針を示しています。通学定期や利用者への影響が大きいことから、橋本議員は、この問題を取り上げ、「市長としてどう受け止めているか」などとたずねました。また併せて、えちごトキめき鉄道が住民の大事な鉄道であることから、利用者を増加させるためにどうすべきかなどその方向性を見つけ出す議論を

市長は、「この間の厳しい経営状況を踏まえ経営基本計画で予定されていた運賃改定の実施が公表されたが、このたびの値上げは将来にわたる市民の足の確保を考えるとやむを得ない」と答えました。また、市民生活への影響が大きいことから、通学定期の値上げ幅を抑制するよう要望していることを明らかにしました。

また利用増に向けて様々なサービス向上を検討、運転免許返納者対象に割引切符や75歳以上の高齢者対象回数券販売、スマートフォンでの運行状況の閲覧などの様々なサービス提供について言及しました。

日本共産党上越市議員団ニュース

No.630 2019年6月23日

連絡先 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
橋本 正幸 080-1980-9855 (三和区鴨井)
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)